

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170600227		
法人名	株式会社 東洋測量設計		
事業所名	ふれあいの里たちばな		
所在地	佐賀県武雄市橘町大字片白346番地		
自己評価作成日	平成29年3月10日	評価結果市町村受理日	平成29年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を職員一人一人が念頭に置き努力している点や入居者様と一緒に楽しく生活したいとの思いで接している事。古民家のつくりの良さを生かして落ち着いて生活できる環境である。敷地が広くゆったりしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成29年5月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県南部の田園風景が広がる自然の中に位置し、古民家を改修したグループホームである。開設より11年を経ており、地域からも周知されている。地区の運動会やふれあい食事会へ呼ばれたり、清掃活動、クリーン活動へホームとして参加する等相互に協力・交流も図られている。ホーム内は古民家の改修という事で段差もあるが、転倒リスクを減らせるよう見守りや話し合いを行い居心地良く過ごせるよう取り組まれている。管理者を中心に、できている所は伸ばし、できていないところはお互いに声を掛け合いながら、更なるサービスの質の向上が図れるよう努力されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	折につけ理念の思い起こしを図っている。理念に沿って毎日の介護支援の中で当てはめるよう努力している。職員も理念に近づけるよう努力している。	事務所に掲示され、職員会議の折等に確認されている。気になるような場面があれば、管理者が職員への注意喚起を促し、理念に基づくケアが実践できるよう1歩ずつの歩みを積み重ねられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中で「運動会」「ふれあい昼食会」を通し交流を深めている	地区の運動会やふれあい食事会へ呼ばれたり、清掃活動、クリーン活動へホームとして参加する等相互に協力・交流が図られている。また、小学校より毎年訪問も受けており、今後も更にボランティアの受け入れ等、ホームの開放に努めていく取り組みが計画されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館をお借りして「認知症サポーター」養成講座を開き地域の方々に施設の取り組み、認知症の理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議への出席の案内また報告を行い取り組みを知っていただいています。会議録も開催後作成しています。	区長、民生委員、家族、入居者の参加のもと運営推進会議が実施されている。記録も整理され、家族へも日々の記録と共に、会議録は送付されている。年間の取り組みとしては、H28年度は年4回の開催にとどまっている。	年6回実施し、参加するメンバーも多方面に呼びかけ、外部からの意見を積極的に取り入れながら、ホームのサービス向上に活かされることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保護課の担当者とは入居者様の受診、入院、転院、転居について随時報告、相談している。地域包括センターの担当者とも相談している。	ホームの空き状況の報告、講座への講師依頼の要請の他、日頃から何かあれば、相談できる関係作りに努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。玄関の施錠は夜間のみ。言葉づかいに関しては管理者も含め注意を払い努力している	内部及び外部研修の機会を設け、身体拘束がもたらす弊害を含め、身体拘束とは何かについて、職員全体で理解する機会を設けられている。現在玄関の施錠を含め、拘束は行われていない。今後も管理者を中心に、気になる対応があれば、その都度注意を行い、拘束をしないケアの意識づけを行っていかれる予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修、外部研修を通し意識づけに努めています。虐待に繋がると感じる時は互いに注意する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に後見人制度を利用し生活されていますので制度の理解はできています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は十分行っています。反省することもありますのでご家族様がホームに望まれる事をしっかり把握するよう尚一掃努めたいと思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の訪問の折から意見を聞き、いつでも話せる関係性を築くよう努めている。	文書や電話での連絡・報告の他、面会時にできるだけ会話する機会を設け、意見・要望を聞き取るよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、日々の申し送り、又ノートの活用を通し意見を出し合っています。	月に1回の会議や日々の申し送り時、ノートにて、情報を共有し、意見を言える場を設けられている。気になる事があれば、個別での聞き取り等も行われ、職員の意見要望を管理者が収集し、代表者へ伝えるようにされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、要望を代表者に伝える形で働くやすくなるよう取り組んでいただいています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の内容、職員の参加など相談し進めて下さっています。研修の知らせは回覧板を活用し参加を促していただいています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者個人はGH協会の会員として交流していますが今後全職員が交流が図れるよう取り組みたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間を取り分けることに努め入居者様の思いを探りだせるよう何でも語って頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の負担を軽減できるように努力はしているものの具体的な事をしっかり把握していなかったこともあり更に信頼を築けるよう努めていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様とゆっくり話を聞いているものの支援の見極めは難しいものがあります。今後の課題も含め適切な支援ができるよう努めていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、料理作りやつぎ分け、生活の様々な面でご本人様の持っておられる力を発揮していただき互いに助け合って生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況をご家族様に報告し協力を仰ぎながらご家族様との絆が築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問時には居室でゆっくり話ができるよう案内し雰囲気大切に、少しの時間でもまた寄って頂けるよう接している。	家族や知人の面会は多くはないが、できるだけ訪問が途切れないよう、訪問しやすい雰囲気作りに努められている。また、馴染みの場所や床屋の利用、家族との外出の支援等、これまでの関係が継続できるよう努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	姉妹のような関係性の方もおられますが中々難しい方もおられますので職員が中に入って関係性が築けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後生じた時は関係性を保ち相談して頂けるように努めたいと思います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間を取り分けることに努め入居者様の思いを汲み取れるよう努力しケアプランに反映している。	入居者本人や家族から情報を収集し、一人ひとりに寄り添い、思いを把握できるよう工夫されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様、支援の方々を通して情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムは大切ですが一日一日により状況の変化も見られるため職員間の申し送りから現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各々に担当の職員が決まっています。職員間でのケアカンファレンスを行いながらケアプランを作成しモニタリングを行っています。ご家族様には訪問時、また電話、手紙を通して意見をいただいています。	本人・家族の希望を聞き取り、アセスメントや課題分析、担当者会議、計画の作成、ケアの実施という一連の取組みが適切に行われている。定期、随時の見直しも実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月の評価、日ごとの評価を通しケアプランの中でできていること、できていないことを見ながら次のケアプランに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の個々のニーズを把握し検討しいま何が出来るのかどんな支援を行えば生活に楽しみが見いだせるかを考えながら支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での参加行事の招待も頂きながら入居者が楽しめる機会を広げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携を密にし状態報告に努めています。状態変化の時は上申し往診、受診を行っています。	もともとのかかりつけ医や協力医療機関のもと、適切な医療が受けられている。受診はホームから支援され、主治医、家族、職員とで情報を共有し、緊急時の対応についても、個々の入居者ごとに、対応の調整が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや気になる事を含めNSに相談報告して指示を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室の職員と連絡を密に取り情報把握に努めています。面会時にはNSにご様子をお尋ねしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様に重度化、終末期にどう望まれているのかお考えをお聞きしています。身体状況の変化を随時報告しながら話を進めるようにチームで取り組んでいます。	本人・家族が希望すれば、重度化した場合でもホームでの看取りも可能で、入居時に説明が行われている。実際にこれまでにホームでの看取りも行われており、主治医を中心として、チームで対応できるよう、体制を整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	市の出前講座を利用して消防署に依頼し応急処置等の内部研修を行った事や外部研修を通しすべての職員が実践力を身につけられるように取り組みをしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市役所安心安全課、区長様、地域の消防団の方の助けを得ながら協力体制を築いている。	消防署の立ち合いはないが、自主訓練として年2回ほど避難訓練が実施されている。以前はあった地域の消防団からの協力は現在は得られていない。災害に備えた備蓄等は、食材を中心に検討されている。	継続して地区の消防団の協力や消防署の立ち合いの元、避難訓練を実施し適切な助言が得られることが望ましい。他の災害についても職員全体でマニュアルを確認する等、継続した訓練を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを守り接し方に注意を払いはらっているができていないかの振り返りは必要ですので申し送り後に促したり、職員会議でも話を行っている。	言葉遣いや動作時の声かけ等、プライバシーを損ねないよう、対応には配慮されている。管理者が会議の場や、日常のケアの中でも繰り返し伝えることで、職員全体への意識づけに努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の中にはっきり意見を言われる方ばかりではないので選択していただけるようにして少しでも自己決定ができるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になりがちな日々のとなっている部分も少なくないと思いますが、入居者様の思いを知り活かせるように努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できない所は職員が支援して髪を編んだり、選択の形をとり希望に近いように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時折おやつ作り、お好み焼き、餃子作りをして一緒に楽しみながら料理しています。下膳も積極的にして下さっています。	調理担当職員が中心となって献立が立てられている。買い物、食材の下ごしらえ、下膳等、無理のない範囲での活躍の場も設けられている。ホットプレートを利用したおやつ作りは、入居者も一緒にホットケーキを焼くなど、料理を楽しむ工夫もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに注意し良質なたんぱく質が摂取できるように、又水分摂取にも注意を払っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の口腔ケアの声かけを行っています。また食事摂取の様子を見て義歯など何か不具合が生じているのではと感じる時は訪問歯科へ連絡し往診を依頼しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にふさわしく声かけて失敗に繋がらないように支援しています。昼間と夜との着用も分けご本人様の力を見極めていきます。	排泄表にて個々の排泄パターンを把握し、トイレへの誘導が行われている。布パンツを使用されている方が多く、できるだけオムツやパットに頼らない、排泄支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取を第一に考え運動を行い便秘予防に努めています。それでも続く時は緩下剤服用し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様お一人お一人に十分とは言えないまでも時間の決定ができるように努めています。	週に3回は最低でも入浴できるよう支援されている。本人の希望や状態により、入浴順等も工夫されている。拒否された場合は無理強いはせず、翌日に延ばしたり、声かけを工夫する等の対応が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠に繋がるようにホットミルクや環境に注意を払っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬のセット時にお薬ノートを繰り返し見て服用の薬を知っている。入居者様別にファイルしている薬のしおりを見て副作用を把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様との会話やご家族様、記録を通し趣味等を知りレクリエーションを行い入居者様お一人、お一人が好きなことに取り組めるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コンサートの招待も頂く事があり普段は行かない所へも大人数で参加したりしている。時間をとり買い物に行ったり地域での招待は積極的に外出しふれあいを持っている。	生活用品等の買物、近くの神社への散歩、コンサートへの参加、季節の花見等、できるだけ外出する機会を設けられている。個別に入居者の思いの実現に向けた取り組みも行われ、希望の場所への旅行の支援も実施されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金をご自分で管理してジュースを買ったりして楽しんでおられます。また事務所でご預かってご本人様希望時に外食、床屋等で使用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お母様が息子様へ電話され会話をされます。時折お手紙を書いて頂いたこともあります。その時は娘様から返事が便せん何枚も頂き嬉しそうに繰り返しご覧になられていました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リラックスして生活していただけるように共有のスペースに季節感を取り入れ環境面に努めています。危険箇所、不自由なところがどうか点検しています。	民家改修型であり、鴨居が低かったり、スロープや段差もあるため、転倒やけがの危険は高いが、できるだけ危険なく過ごせるよう配慮されている。季節を感じられる壁掛けや写真が飾られるなど、ゆっくり過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の座りたい場所で一緒に過ごしたり居室で一休みしたりし自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様のなじみのある品物写真などを飾っていただいています。居室で編み物、縁側にて過ごされる方には椅子を設置しています。	特に危険がない限り、持ち込みの制限はない。使い慣れた物、好みの物を持ち込み、できるだけ居心地良く過ごせるよう、担当者を中心に環境を整えるようにされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内に危険なものがないか、居室入り口には花の名前を掲げ迷われないように工夫している。		